

# 小児医療への関わりから考える公共図書館の役割

## ー長崎市立図書館の取り組みからー

黒岩綾香

長崎市立図書館

### 【目的】

長崎市立図書館は、これまで医療機関や団体と連携し、小児がんや小児の在宅医療についての情報を提供してきた。外部機関が公共図書館と連携する理由としては、情報の窓口としての機能の活用、一般の方もイベントに参加しやすいというメリットなどがあげられる。

では、公共サービスを提供する機関として、図書館は小児医療に関わる問題をどう捉え、どのように支援するべきか。場の提供のみに留まらない、図書館の担うべき役割を考える。

### 【講演会と交流会】

これまでに、外部機関と連携して「特別支援学校」「きょうだい支援」「ICT機器を活用したコミュニケーション」などをテーマに講演会と交流会を行った。当事者(子どもとその家族)はもちろん、医療、福祉、教育、保育などさまざまな立場や職種の方が参加され、本だけでは得られない知識の共有や人と人とのつながりが図書館で生まれた。また、それにより家族が抱える将来の不安、日々の悩み、成長に伴い直面する問題など、狭い範囲でのみ認知されていた事柄が見えるようになってきた。

### 【結果】

取り組みのなかで、誰でも利用できる公共の図書館だから実現できた出会いや、予想していなかったような発見があった。当事者や関係者だけではなく、問題や現状を市民に広く知ってもらうきっかけにもなった。何より図書館員自身がまちの課題にふれ、考え、学ぶ貴重な経験となっている。これらのことから、知の拠点である図書館の役割として、情報を発信するだけではなく人や機関がつながる機会や情報が集まる仕組みをつくることが重要であると考えられる。

### 【今後の課題】

人と人、人とまちがつながる機会をつくるために、講演会といった大きなイベントだけではなく、誰もが日常的に図書館を利用できる環境づくりが必要である。当事者だけで問題を抱え込まず、地域社会で問題を共有すること、そしてその問題を自律的に解決できるような学びを支援することが、長崎市立図書館の今後の課題である。